



大宰府式鬼瓦

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

1 鬼瓦とは

鬼瓦とは、瓦ぶきの屋根の棟の端をふさぎ、また同時に建物を装飾する役目を持つ瓦のことです。さまざまな文様が施されることで、装飾性ゆたかな瓦となっているわけですが、日本においては当初は、鬼瓦の文様は、主に蓮の花などでした。それが奈良時代に、鬼面の文様があらわれて、以後は主流となったことによって、やがて鬼瓦と呼ばれるようになったのです。鬼面をあらわした鬼瓦は、辟邪、要するに魔よけとしての機能をも持つのだとされています。

2 大宰府式鬼瓦－Ⅰ式・Ⅱ式・Ⅲ式－

大宰府式鬼瓦は、大宰府史跡をはじめとして、九州北部の遺跡から出土する、奈良時代の鬼瓦です。その系譜をひく鬼瓦は、九州南部からも出土しているので、九州、つまり大宰府の管内全域に影響を及ぼしたことになります。大宰府式鬼瓦という名称は、まさに的を射たものと言えます。その出現は8世紀の第1四半期、西暦701年から725年の間だと考えられ、日本最古の鬼面鬼瓦だともされています。

つくり方としては、型に土を幾層かに分けて詰めてゆき、そして型から抜いた後に焼いて完成させるというもので、それ自体はそれまでの鬼瓦とも同時代の鬼瓦とも変わりがありません。しかし造形的には異彩を放っています。都のものを含め、日本の古い鬼瓦は板状の平板な造形が多いのですが、大宰府式鬼瓦は、立体感ゆたかな造形をしているのです。

そのような大宰府式鬼瓦は、Ⅰ式、Ⅱ式、Ⅲ式の大きく3型式に分かれています。Ⅰ式は最も古く、Ⅲ式は最も新しいのですが、しかしⅢ式も、奈良時代のものではあるでしょう。並べてみると、次第に造形が洗練を失う様子が見受けられます。やはりこの中ではⅠ式が、さらに大きさによってAとBの2種類に分けられているうちの、大きな方であるⅠ式Aが、代表的な存在です。大宰府式鬼瓦について考える時には、まずはこのⅠ式Aを見るのがいいでしょう。



大宰府式鬼瓦Ⅰ式A

太宰府市大宰府政庁跡出土
奈良時代(8世紀)
九州歴史資料館蔵



大宰府式鬼瓦Ⅱ式

太宰府市大宰府政庁跡出土
奈良時代(8世紀)
九州歴史資料館蔵



大宰府式鬼瓦Ⅲ式

太宰府市伝水城跡出土
奈良時代(8世紀)
九州歴史資料館蔵

3 I式Aのこと

大宰府式鬼瓦 I 式 A は、1 点が福岡県糸島市の怡土城跡から出土している他は、大宰府政庁跡を中心としつつ、水城跡、大野城跡、筑前国分寺跡、筑前国分尼寺跡などからのみ出土しています。主として大宰府の中核でのみ使用されているわけです。大きさは、高さが 50cm 程度、幅と厚みは最大で、45cm と 15cm 程度を測ります。その姿は、台形に近い輪郭の中に、連なる珠文に縁どられながら、一杯に鬼面があらわされているというものです。眉は炎のように吹き上がり、つり上がった大きな眼は飛び出さんばかりで、鼻は眉間にしわを寄せ小鼻を丸くふくらませながら、どっしりと構えていて、咆哮するように開いた口には、鋭い牙と四角い歯が並んでいます。そしてこの忿怒の相においては、骨格や筋肉の動き、皮膚の伸縮までが意識されて、各部分が有機的に連動しながら、ひとつの表情をつくり上げています。この立体感や迫真性は、平面的図案的な同時代の鬼瓦とは異質で、むしろ忿怒形の仏像の面部に通じています。原型の制作には、仏工の関与が想定されます。

迫力ある大宰府式鬼瓦の造形は、古今東西の鬼瓦の中にあって孤高のものです。しかしだからといってこ

れは、無から作り出されたわけではありません。台形をした輪郭は、統一新羅時代の鬼瓦の輪郭と大変よく似ていて、それに学んだことが明らかです。そして、統一新羅時代の鬼瓦とは全く異なっている鬼面については、日本古来の鬼面の系譜上にあることが指摘できます。福岡県福智町の神崎 2 号墳から出土した獅噛環柄頭などは、先行する好例だと言えます。大宰府式鬼瓦は、奈良時代の大宰府で、東アジアの様々な造形を参照しながら生み出されたのです。

4 大宰府式鬼瓦とは

大宰府式鬼瓦は、壮大で重厚な施設を新たに整えた大宰府が、新たに創造したものです。その猛々しさは、そもそも軍事拠点として出発し、未だその性格を色濃くまとっていた大宰府に、まことにふさわしい造形だったことでしょう。そして、大宰府式鬼瓦の猛々しさには、装飾や辟邪にとどまらない機能を感じることができます。この造形は魔に対するだけではなく、見上げる人間に大宰府の威武を示す役目ももっていたと考えています。今、大宰府史跡の顔として親しまれている大宰府式鬼瓦は、大宰府在りし日にも、その力と性格とを象徴する存在として、楼上に君臨していたのです。

(学芸調査室 井形 進)



新羅の鬼瓦

韓国・慶州皇龍寺址出土
統一新羅時代
国立慶州博物館蔵
(『新羅瓦磚』国立慶州博物館 2000年より)



獅噛環柄頭

福岡県福智町神崎 2 号墳出土
古墳時代(6世紀)
九州国立博物館蔵



編集

発行: 平成26年 1月21日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>